

地域を舞台とした団塊世代等シニア層の活動の促進

1 現状・課題

2007年から“団塊世代”の退職時期を迎える。雇用延長等が図られる一方で、フルタイムでない働き方(生きがい就労等)の希望等から、総じて就労に関わる時間は減少し、地域で過ごす時間が増加すると考えられる。こうした中、先の「のじぎく兵庫国体・兵庫大会」では、多くのシニア層がボランティア参加されたところであり、団塊世代等シニア層の地域活動参加への機運と期待が、今、大きく高まっている。

少子高齢化が進む中、団塊世代等活力あるシニア層は地域活動の新しい“力”となる。団塊世代等が地域を舞台に活動することは、地域の元気アップにつながることから、地域活動に誘導する取り組みにより、定年は人生の第2ステージの始まりであるとの発想の転換のもと、団塊世代等活力あるシニア層が地域とのきずなを深め、地域社会の中で役割を担える仕組みを創る絶好の機会を迎えている。

〔団塊の世代の活動をめぐる課題〕

(1)地域づくり活動	活動への参画意欲は高いがきっかけがつかめない団塊世代を活動の担い手確保が必要な地域団体・NPOへ誘導
(2)学習活動	増加する学習需要に応じた高齢者大学等受け入れ体制充実
(3)いきがい就労等	地域で働きたい団塊世代への相談機能充実 (コミュニティ・ビジネス創り提供等)

2 目標

地域を舞台とした団塊世代等シニア層の活動の促進

団塊世代等シニア層の地域での活動による「新しい公」の担い手の創出

【期待される主な効果】

地域コミュニティの基礎となる自治会等地域団体の活動を支える担い手の創出
 専門知識等を生かしたNPO・ボランティアグループの育成・体制強化
 学習による一層の実践的な地域づくり活動の展開
 コミュニティ・ビジネス、就農等を通じた地域産業・経済の活性化
 団塊世代等シニア層の健康で充実した暮らしの実現
多様な活動展開を通じた地域の元気アップ など

(参考1) 団塊の世代の活動の地域での意義

大人数で、自由時間も多いため、活動の量的拡大が見込まれる。
 豊富な知識・経験、高い技能を持っており、活動の質的向上が見込まれる。
 多様な志向を持つため、活動の各分野での広がりが見込まれる。

(参考2) 団塊の世代各種データ

兵庫県の団塊世代の人数：約30.7万人(S22～S24生まれ)(H17国調)
 2007年に60歳となる人の77%が就労希望だが、就労予定者の40%は勤務時間を短縮して働く(電通「退職後のリアル・ライフ調査」H18.9月)
 地域づくり活動したい人(44.7%)と実際に活動している人(17.3%)に差
 (地域づくり活動に関する「県民意識・実態調査」(H17))
 団塊世代の9割近くは、条件が合えばボランティア活動への参加意向を持つ
 (NACLシニア研究所「団塊の世代を中心とする“定年ビフォー・アフター”世代の生活意識調査」(H16))

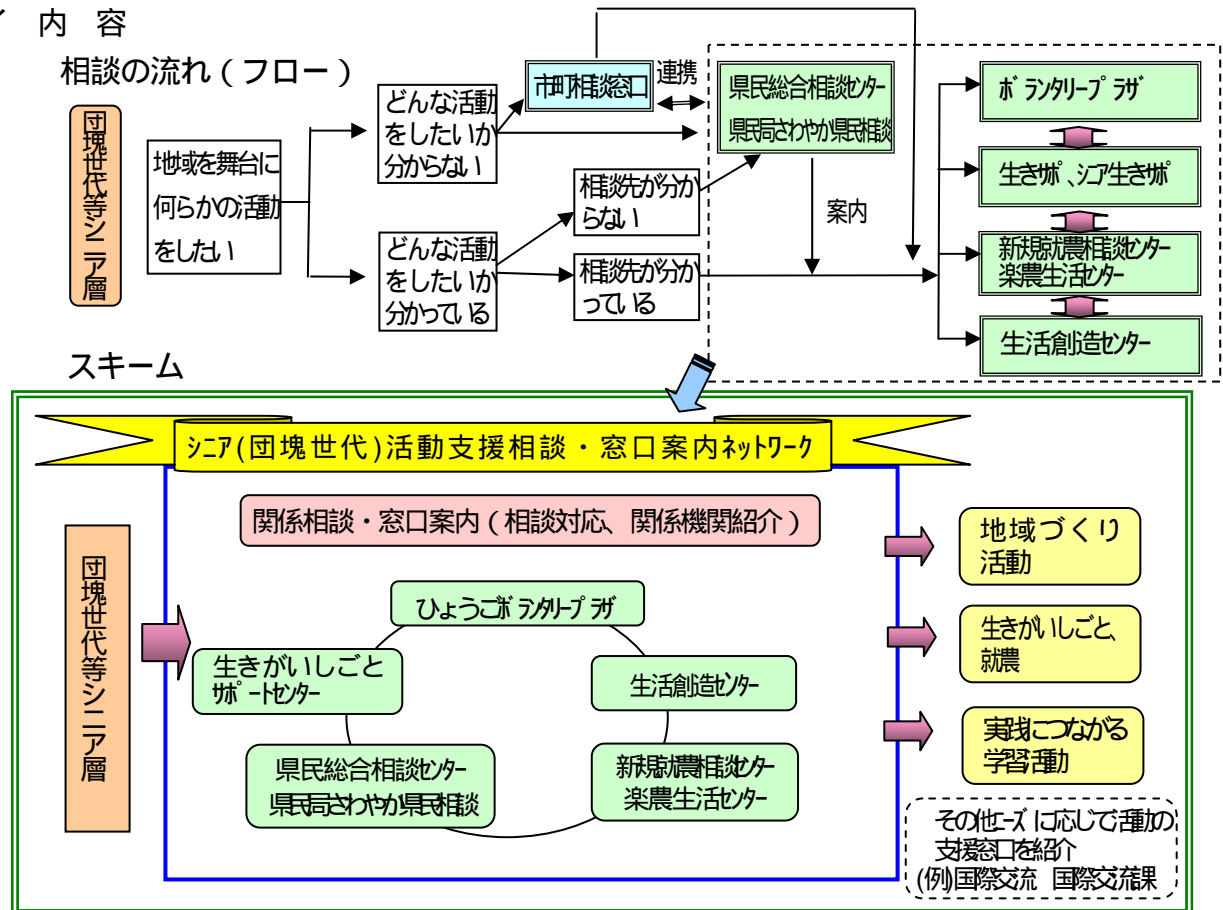
3 団塊世代等シニア層の地域での活動による「新しい公」の担い手の創出

(1) シニア(団塊世代)活動支援相談・窓口案内ネットワークの構築

ア 趣旨

大量退職時期を迎える団塊世代等の地域を舞台とした活動を支援するため、「地域づくり活動」「就労・起業」「学習」などの専門相談機関、相談窓口案内機関が連携し、所管する専門相談を実施しながら、それぞれの支援策の情報共有を図り、ニーズに応じた適切な相談機関に相互につなが合う「シニア(団塊世代)活動支援相談・窓口案内ネットワーク」を創設する。

イ 内容



取り組み

団塊世代等シニア層の活動支援に関わる各機関の支援策の情報共有、各種相談窓口の案内

- 1) 相談・窓口案内
 - ・ 窓口案内機関におけるニーズに応じた相談窓口の案内
 - ・ 専門相談機能を有する機関における相談の実施
 - ・ 関係機関の情報共有・連携による相談窓口の相互紹介
- 2) 総合窓口案内チラシ、県民向け普及啓発資材()の作成・配置、各種チラシ等の相互配置(資材に団塊世代の意識改革につながる啓発表示(「定年は第2の人生の始まり」等)

推進体制

関係機関連絡会議を設置し、連絡調整を図る。

(事務局) 参画協働課(総合窓口案内チラシ作成等共通事務を実施)

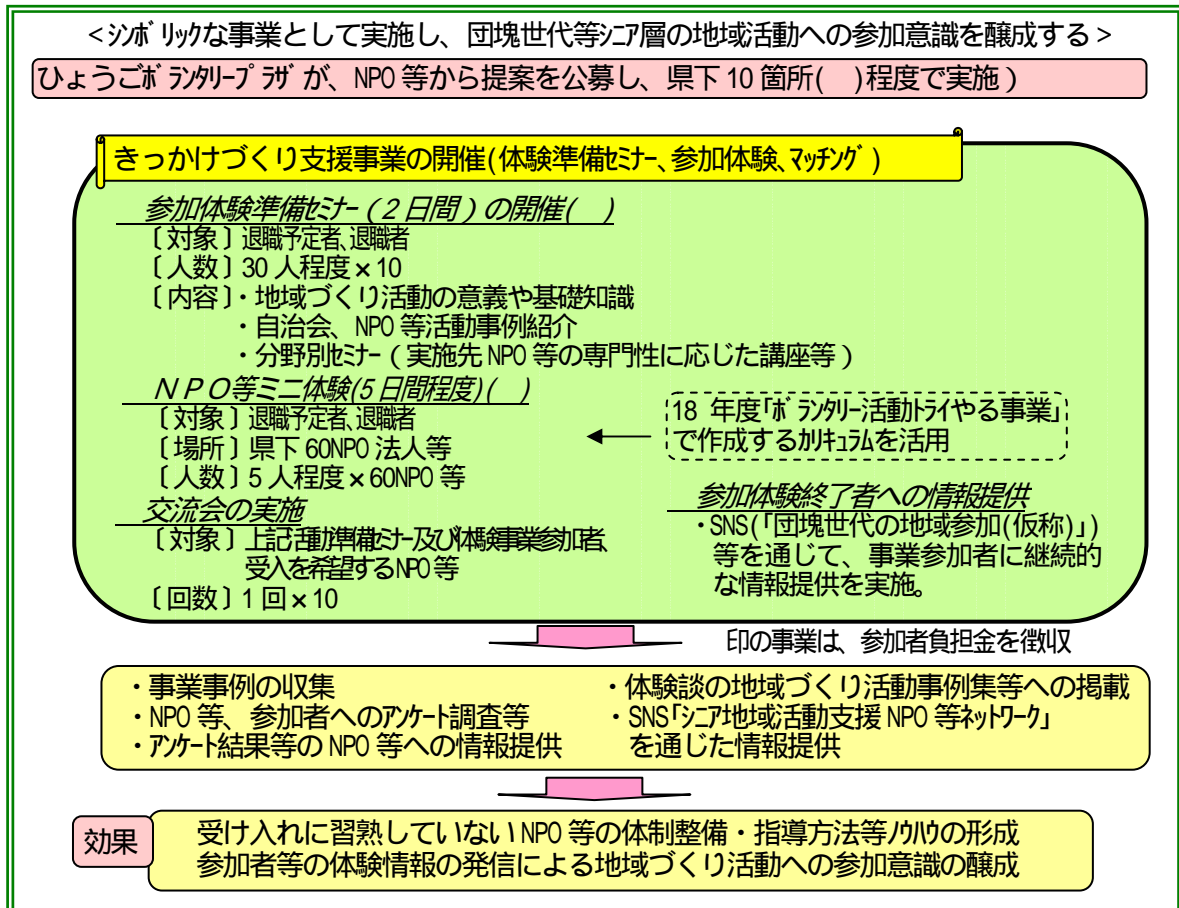
(2) 地域づくり活動へのきっかけづくり支援

ア 趣旨

地域づくり活動への参加意欲は高いが、きっかけがつかめず、“はじめの一步”が踏み出せない団塊世代等シニア層に対し、地域づくり活動参画に向けた基礎知識習得の場の提供や参加体験・マッチングを通じて、ニーズに合った活動の開始に結びつけるとともに、事例の蓄積・情報提供によるNPO等の自立的な支援活動の展開を促進する。

イ 内容

スキーム



取り組み

- 1) 参加体験準備(会社人間リセット)セミナー
 団塊世代等が地域づくり活動に入りやすくするため、県下10箇所程度で、参加体験に先立ち、地域づくり活動の基礎知識を習得するセミナーを開催する。
- 2) NPO等地域づくり活動への参加体験
 団塊世代等シニア層が、身近な地域で地域づくり活動を体験できるよう、県下60箇所程度で参加体験事業を実施し、交流会の開催により活動のマッチング等を行う。
- 3) 参加体験終了者等からの情報発信、情報提供
 参加者、参加NPO等にアンケート調査を実施し、体験記録等を活動事例集等で情報発信する。
 ・アンケート集約結果をNPO等に情報発信し、受入体制整備・指導方法等ノウハウの形成を図る。
 ・参加者が活動に結びついた事例(10)を「シニアチャレンジ地域づくり」事業の活動事例集に掲載するほか、上記SNS等を通じて広く発信する。
 体験事業終了者に対し、SNS等を通じて地域づくり活動情報を継続的に提供する。

実施方法

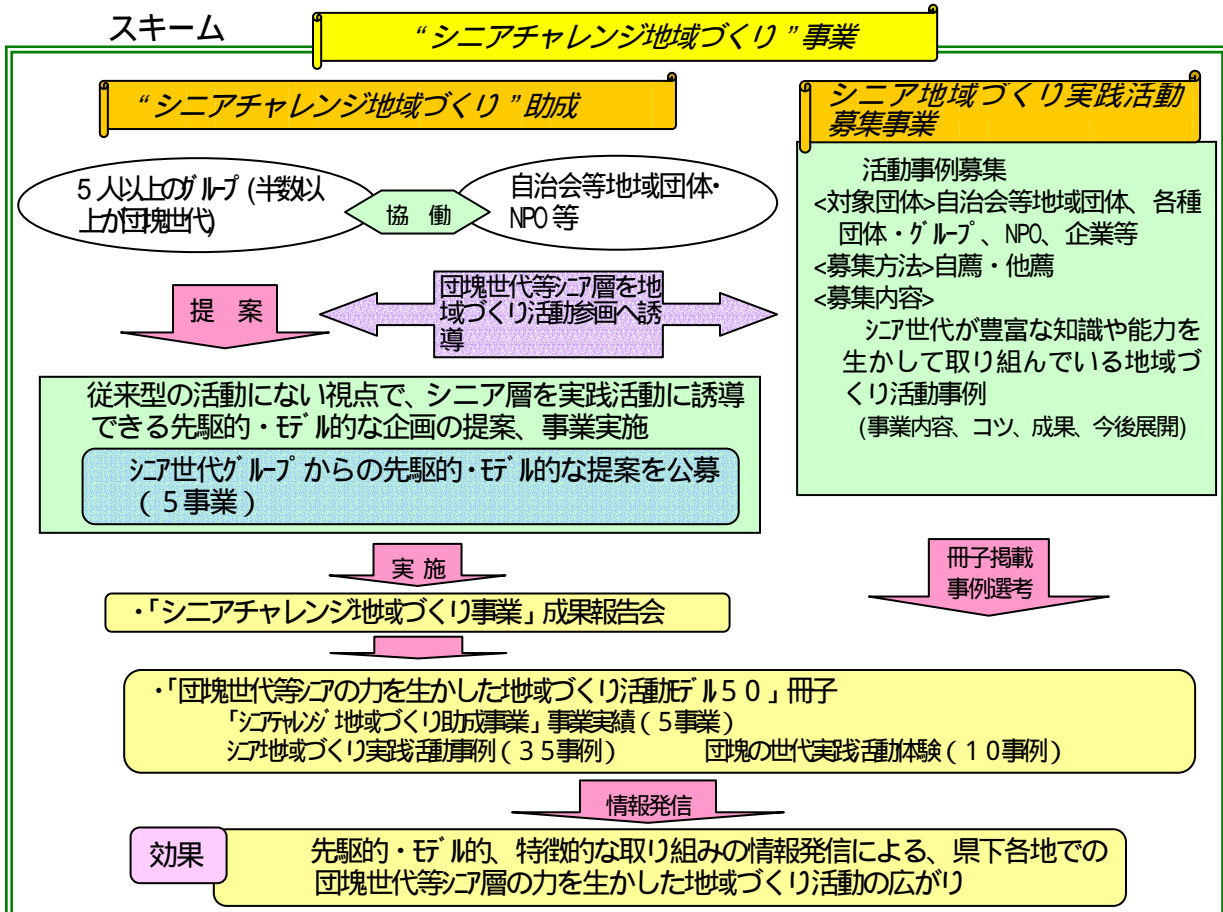
ひょうごボランティアプラザに補助して実施。(プラザが中間支援NPO法人・市町社協等から提案を公募し、優れた提案を行った法人等に委託。) (H19~H21での実施を予定)

(3) 団塊世代等を地域づくり活動に誘導する特色ある取り組みの情報発信
 - “シニアチャレンジ地域づくり” 事業 -

ア 趣 旨

団塊世代等シニアグループが地域団体・NPO等との協働のもと、豊富な経験と能力を有するシニア世代を、地域づくり活動の実践に誘導する先駆的・モデル的な提案を募集し、事業実施に助成するとともに、既に団塊世代の力を生かして取り組まれている優れた実践活動を募集し、これらの成果を集約して広く発信する。

イ 内 容



取り組み

- 1) シニアグループが地域団体・NPO等と協働して取り組む、団塊世代等シニア層を地域づくり活動実践に誘導する企画提案の募集、実施への助成・成果発表
 「団塊世代等シニアのキャリアやネットワークの活用」「シニアとシニア、シニアと若者などの地域間交流」など、従来型の地域づくり活動にはない視点で、団塊世代等を地域づくり活動実践に誘導する先駆的・モデル的な企画提案を募集・実施し、成果を発信
- 2) シニア世代が豊富な知識や能力を生かして取り組んでいる地域づくり活動事例の募集
 地域で取り組まれている活動事例を募集。事例集編集委員会で優れた事例を選考。
- 3) 事例集「シニアの力を生かした地域づくり活動モデル50」の作成
 団塊等シニア層を地域づくり活動に誘導する特色ある取り組みの内容・実施状況や実践活動の体験等を事例集にとりまとめ、広く情報を発信する。
 (モデル事例)“シニアチャレンジ地域づくり”助成事業5事例、地域での実践活動から応募のあったものから事例集編集委員会で選考35事例、きっかけづくり支援事業参加者の体験談10事例。

実施方法 本庁で実施し、成果を各市町等に発信する。

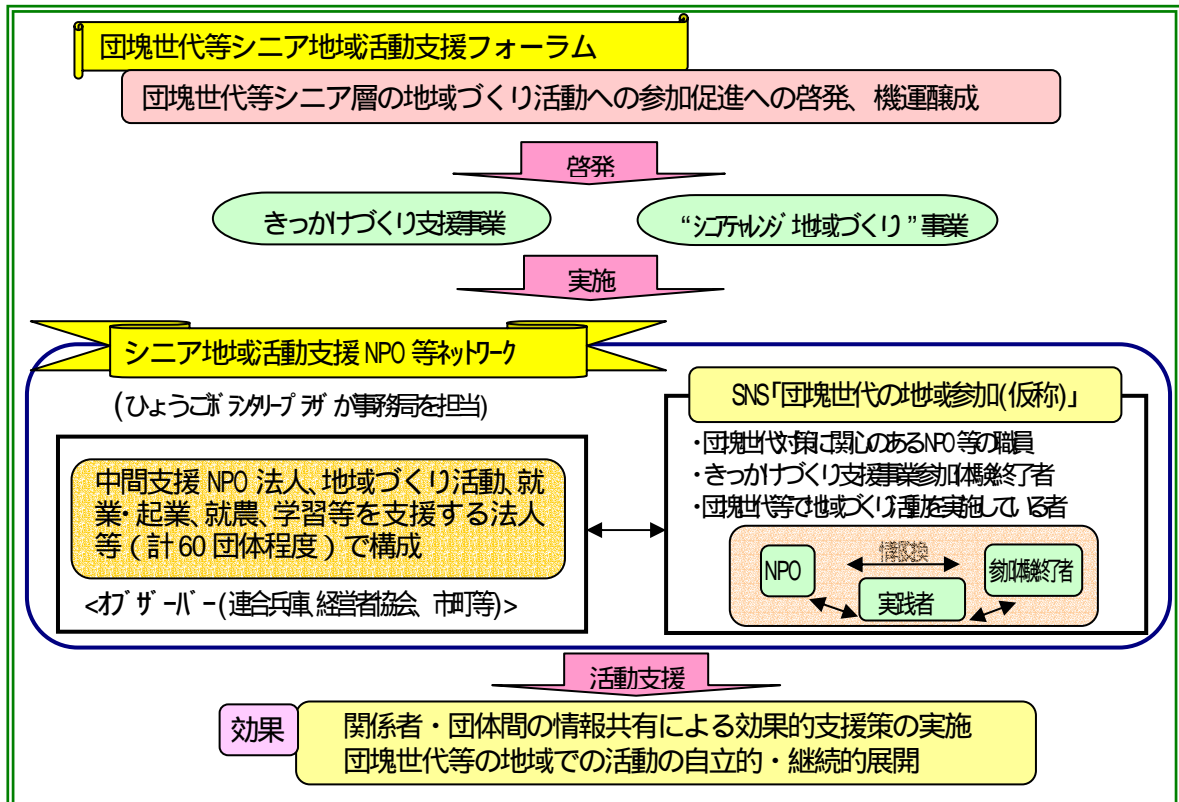
(4) 団塊世代等シニア層の地域を舞台とした活動を支えるネットワークの構築
 - シニア地域活動支援 NPO 等ネットワーク事業

ア 趣旨

「地域づくり」「就業・就農」「学習」などの分野で活動する NPO・ボランティアグループ等のネットワークを促し、関係団体間の情報共有を図るとともに、共同した取り組みの実施により、団塊世代等シニア層の地域を舞台とした様々な活動への参画支援の基盤とする。

イ 内容

スキーム



取り組み

- 1) 団塊世代等シニア地域活動支援フォーラムの開催
 - 団塊世代等シニア層の地域づくり活動への参加促進への啓発、機運醸成
 - <内容> フォーラム(全体会) 分野別分科会
 - <対象> 団塊世代対策に関心のある NPO 等、地域での活動に関心のある団塊世代等、参加体験事業終了者をはじめ、県民一般を対象
 - <回数> 1回/年
- 2) 情報の共有発信
 - SNS「団塊世代の地域参加(仮称)」等を活用した情報共有・交換
- 3) 情報交換会の実施
 - 取り組み事業の紹介や団塊世代等の要望・ニーズに関する情報交換
 - メンバー情報交換会(きっかけづくり支援事業実施者(10NPO等))
 - <回数> 年1回程度 <開催> 神戸市内
 - 地域情報交換会(きっかけづくり事業実施箇所ごとの情報交換会)
 - <回数> 年2回程度×10箇所 <開催> 各事業実施箇所

実施方法

ひょうごボランティアに補助して実施。

【平成19年度 団塊世代対策主要施策体系】

